

その1 期間限定の尾瀬・至仏山 2228m (個人山行)

◎平成 31 年 4 月 23 日 (火)

◎A (L)、B (SL)、C、D、E、F、H、J

平成最後の雪山山行は昨年同時期に家人と登り、急登も危険箇所もなく高齢者が気楽に雪山登山を楽しむに恰好のルートと確信した至仏山で迎える事にして同好の士に声をかけた。この山の問題点は冬季閉鎖の林道開通が毎年 4 月 20 日前後であり、5 月の連休明けには今度は植生保護の為鳩待峠からのルートが 7 月迄入山禁止になってしまう為、登れるのはたった 10 数日しかないという点にある。さらにはメンバーの都合と空のご機嫌伺い絡ませでの日程調整や連休中は登山者だけでなくスキーヤーやボーダーが殺到し、鳩待峠の狭い駐車場はすぐ満杯になって締め出されてしまうという厄介な問題もある。そういう様々な困難を克服して漸く決定されたこの日程、外れになりませんよう！

前日は半日行程の手ごろな赤城山系・地蔵岳 (1674m) で足慣らし、その日は苗場・浅貝のグループ・ネージュ山荘に宿泊、翌朝の早立ちに備えお酒は控えめにして 21 時に就寝。

23 日・3:00 起床、4:15 出発、三国峠を抜けた国道 17 号は濃霧に覆われ、時には視界 20~30 ㎝となり、これはハズレたかと、少しばかり気が重くなる。しらしらと開け始めた沼田市内は桜吹雪、それが吹割ノ滝辺りに来ると三分咲きとなり、片品村戸倉では漸く蕾が膨らみ始めたようになる。わずかな標高差の中での桜の花のあり様が面白い。通称沼田街道と呼ばれる国道 401 号線を尾瀬戸倉温泉で左折、笠科川に沿った県道 63 号線に入るとすぐに道路脇に雪が出てきた。昨年に比べると今年は多いようで、鳩待峠も雪に覆われていた。案じていた駐車スペースはまだ 7~8 台の余裕がありセーフ、第一関門無事通過でヤレヤレの思い。鳩待山荘前の除雪後の雪壁を渡ってトイレを済ませ、ガスに覆われ視界が悪い中、6:35 出発。

今回の足元は皆さんバラバラで、スパイク付き長靴 4 名、登山靴にアイゼン 3 名、シール付き短スキー 1 名といういで立ち、天気は悪いが 19 日の道路開通後 4 日目とあり、しっかりトレースが付いており、まずは間違いようがないはずと各自の力量にお任せし、4 つに分かれて出発する。峠の標高が 1591m、頂上まで標高差は 630m 程で、この標高差の少なさが有難い。ブナ、白樺、シラビソ等の混在する樹林帯を F さんと二人西へ向かって緩やかに登る。昨年は雪交じりの強風にたたかれ泣かされたが、今日は同じように視界は利かないものの風も無く暖かいので随分楽だ。先行する B さん達 4 人の健脚組はすぐに見えなくなったが、ゆっくりマイペースで進む。シャーベット状の雪にはアイゼンよりも長靴のピンが具合よく、踏み跡はしっかりと固められツボ足でも踏み抜くこともない。

何も見えず飽きてくる頃、進路はゆるやかに北へとカーブして森林限界のオヤマ沢田代に近づくと、前方が明るくなり目指す至仏山の頂上がうっすらと見えてきて思わず大声で「至仏山が見えてきましたよ！」と F さんに伝える。「なにかモンブランみたいだなあ」と若き日のアルプスを思い出している F さん。



その後急速に天気は回復し、尾瀬ヶ原や燧ヶ岳も見えてきてこれは1年前とまったく同じパターン、急に元気が出てきたが、ここでFさんから適当な所で引返すので先へ行ってくれとのお話あり、別行動とする。少し急いで先発組を追うと、かなり引き離されていたと思ったが、意外にそれ程でもなく、小至仏山トラバース道入り口で追いついた。前線通過中だった1年前は、山スキーの狭いトレースが1本あるだけで、固く凍り付いたトラバース道はピッケルを持たずストックだけだったので恐る恐る渡ったのだったが、今日は雪も緩んでいるし、先行者のトレースで道幅も広がっていて楽勝だ。

先行した4人にそう遅れずに9:30頂上着。昨年より40分も早いペースだった。白く広がる尾瀬ヶ原の先に浩然と聳える燧ヶ岳にまず目を奪われたが、北には雲海の上にちょこっと純白の頂きを並べる越後駒と中ノ岳の光景が、本場アルプスを思い起こさせて目が釘付けになった。あちらは3800m位が下界との境界だが、こちらはせいぜい2000m、それでも雲の海の上に浮び出た2つの真っ白なピークは忘れ難いものがあり、カメラに収める。



ちなみに今回至仏山登頂は5名、小至仏山までが3名であった。短スキーは登るには良かったが林間を滑るには相応しくないとの由。

2年連続で途中から天気回復しこの時期の至仏山は好きな山となった。来年は山ノ鼻へ抜けるルートに挑む事にしよう。

《コースタイム》

鳩待峠 6 : 35 ~ 9 : 30 至仏山 9 : 55 ~ 11 : 50 鳩待峠



(了)